

山行報告

■立雲峡と竹田城跡散策

- 日 程：7月16日(火)
- 参加者：L上田 SL和田 阿部 天野 泉 内海 小田(敏) 田中(美) 苦瓜 野村 安田 吉村
- 行動記録：JR 竹田駅 10:43 発～立雲峡登山口 11:22 発～第3展望台(11:24 着)11:31 発～第2展望台(11:34 着)11:44 発～第1展望台(12:01 着)12:24 発～登山口(12:41 着)12:48 発～JR 竹田駅(13:15 着)13:28 発～駅裏登山口 13:33 発～登城受付所 14:12 発～天守台(14:20 着)14:30 発～JR 竹田駅(15:35 着)

◆夢に見ていた天空の城“竹田城跡”

阿部

雨降り予報も、何処かへ吹き飛んで上天気！ワクワクして出発！？

8時30分姫路駅集合、播但線に乗り途中、寺前駅にて乗換、10時27分竹田駅到着。



情報館にて、立雲峡の聞き込み。第3、2、1と展望台があります。ここから車で行くなから10分の道を歩いて行き、登山口へ、そこから第1展望台迄40分の登りです。

第2展望台でも十分に竹田城跡が見えますので、無理をしないで登ってくださいとアドバイスを頂きました。

スタートすると、地面に傾斜6%と書かれている歩道をひたすら歩き、立雲峡の入口に到着。

会員の方から、第1か第2の展望台でもいいのではないかと意見もありましたが、皆さんてっぺんを目指してスイスイ。流石、健脚！丁度12時でしたので20分の昼食タイム。自然の中に浮かび上がった竹田城跡を眺めながらのおにぎりは、贅沢なランチとなりました。

来た道を、又引き帰して情報館でアイスクリームや冷たい飲み物で一休み。さあ本番！

高さは、立雲峡より低いのですが、とにもかくにも、天気が良すぎて、暑い一言。何度か休憩しながら頂上へ。頂上からの眺望は、360度見渡せて、こんな気持ちが良い所にはどんな方々が住んでいたのかと、悠久に思いを馳せて見ました。兎に角高い所の城ですが、石垣は野面積み、築400年以上、今でも当時の威容を誇っています。こんな場所に城を築いた先人達に完敗！14時30分から下山し始め、皆さん口々に、何故下りは、こんなに速いのかしら？下山後、体操と着替えを済ませてから、飲める方は缶ビール、私はアイスコーヒーを片手に15時57分の電車に乗り込み一路、姫路へ。見ると登るとでは大違いを改めて実感した1日でしたが、登山とは、皆さんと一緒に登る事がとても楽しく力を頂ける事に、嬉しさも感じられた日になりました。上田リーダーはじめ会員の皆様へ、感謝！感謝！

■^{こやま}加東神山

<女性委員会山行>

- 日 程 : 7月17日(水)
- 参加者 : L垣内 SL澤田(律) 黒本 笹木 徳本
- 行動記録 : やしろ鴨川の郷 9:05 発~展望台(9:30 着)9:35 発~437mピーク(10:00 着)10:10 発~下りとの合流点(10:20 着)~加東神山(11:40 着)12:15 発~下りとの合流点(13:10 着)~やしろ鴨川の郷(13:45 着)

◆女性委員会・加東神山山行に参加して

徳本

加東市のやしろ鴨川の郷に9時集合し準備運動の後、出発しました。

やしろ鴨川の郷から上をみると山の上に展望台が見えました。この展望台目指して登りました。結構急な階段を登って行きました。階段は大きくジグザグに整備されていたので登りやすかったです。気が付けば展望台についていましたがとても疲れました。展望台からのながめは

素晴らしかったです。加東市の山々が見えました。ここで少し休憩して出発しました。木々の中の登山道、落ち葉を踏んで登って行きました。木立の中を上ったり下ったりしました。途中、急な長い下りがありましたが、ロープが張ってあったのでロープを辿って下って行きました。ロープがあって助かりました。下りの後は、長い上りがまっていました。ほとんど木立の陰のある登山道だったので暑さでバテルということはありませんでしたが大変疲れました。加東神山の頂上まで



は、上ったり下ったりを何回か繰り返しました。ウバメガシが群生していました。加東神山の頂上でお昼を食べました。周りは木々で囲まれていて気持ちがよかったです。少し休んで下山しました。下山している途中で「こんな急な所を登ってきたのだな。」と思って驚きました。

「よく登れたなあ。」と思いました。山の間から流れている小川に沿って下って行きました。石に苔が生えていて何回か転びそうになりました。小川を下って行くとやっと登山道に出ました。足が疲れてきました。重い足を引きずるようにして登山道を下って行きました。ようやくやしろ鴨川の郷の駐車場に出ました。4時間半ほどの山行でしたが、急な階段急な登山道を登り、ロープを使って下ったり小川の中を歩いたり、変化にとんだ山行だと思いました。また、木立の中、落ち葉を踏み踏み登って、心が落ち着く山行でした。

リーダーさんメンバーの皆さんお世話になりました。ありがとうございました。

■谷川岳(日本三大急登西黒尾根から谷川岳へ)

- 日 程 : 7月25日(木)~28日(日)
- 参加者 : L藤本 SL木下 高島 山本(清)

●行動記録：

(25日)三宮 20:30 発

(26日)東京駅(6:40 着)7:48 発—上毛高原駅(9:20 着)9:35 発—谷川岳ロープウェイ駅(10:35 着)10:50 発～西黒尾根登山口(11:05 通過)～鉄塔(11:25 着)11:30 発～標高 1300m 地点(12:40 着)12:50 発～標高 1500m 地点(13:25 着)13:30 発～ラクダの背(14:05 着)14:10 発～ザング岩(15:40 着)15:45 発～肩の小屋(16:20 着)

(27日)肩の小屋 6:00 発～トマノ耳(6:10 着)～オキノ耳(6:30 着)～肩の小屋(7:00 着)7:10 発～天狗の溜まり場 7:50 通過～熊穴沢避難小屋 8:40 通過～天神平ロープウェイ駅(9:30 着)～谷川岳ロープウェイ駅(9:50 着)10:10 発—上毛高原駅(11:20 着)11:43 発—東京駅(13:00 着)22:45 発

(28日)三宮(8:20 着)



◆谷川岳

木下

神戸三宮高速バス待合所に午後8時集合、そこから係員に誘導され、飲み屋通りを南に進み、JR高架をくぐったところがバスの乗り場だった。「VIPライナー楽のびシート」という夜行バスに乗る。4列シートながら前後の幅が広く足をゆったりと伸ばせられ、リクライニングシートも最大限に倒すと横になることができた。

道路の渋滞でバスの東京駅到着が遅れ、西黒尾根登山口スタートの予定が9時だったのが、結局11時過ぎから登りはじめることになった。登山地図のコースタイムの計が4時間10分、計画では4時間30分、そして実際に要した時間は5時間と少々。「日本有数の急坂」と地図に書かれているだけあってタフな登りだった。また、若い頃と違い、コースタイムを考える際には時間に余裕を持つことが必要だと思った。

谷川岳ロープウェイ駅の隣にある登山指導センターで天候の状況などを訊ねて、しばらく林道を歩くと登山口の標識があり、いきなりの樹林帯の急登がはじまる。天気はくもりで肩の小屋に到着する頃には少し雨が降ってきた。ラクダのコブと呼ばれる1500m付近から岩場の登山道となり、クサリ場が何か所も出てくる。同時に森林限界となるのかブナの大木が姿を消し見晴らしが良くなってきた。ロープウェイやその終点となる天神平付近の建物が左側に見え

てくるが、ガスのため谷川岳付近の様子は見えない。ザンゲ岩を通過してからはガスの中、ひたすら歩きようやく午後4時過ぎに肩の小屋に到着した。

肩の小屋にはロープウェイを使い天神平から登ってきた軽装の外国人グループ5、6人がいて、今から西黒尾根を降りるつもりだと言う。それを聞いた小屋の主人が、暗くなってくるし雨で岩が濡れていて危険だからと、このルートでの下山を思いとどまらせ、天神平まで戻ってロープウェイ下の道に行くよう勧めた。小屋の主人の忠告がなければ彼らは西黒尾根で悪戦苦闘したことだろう。

小屋には20人弱が泊まっていた。台風5号が東海地方に近づいてきたせいで、夜半、風と雨が激しくなったが、明け方には少し収まってきた。

翌日、小屋に荷物を置き、雨の中を双耳峰であるトマの耳(1963m)とオキの耳(1977m)を登る。周りの景色が全く見えなかったが、標識を見て谷川岳頂上を実感した。肩の小屋からザックを背負い天神平ロープウェイ駅を目指して出発、天神尾根を下る。晴れていれば展望が楽しめる道だがガスで周囲の景色が見えない。熊穴沢避難小屋を通り天神平に到着する。ここから谷川岳ロープウェイに乗って一気にふもとまで下る。

バスで水上温泉を経由し上越新幹線、上毛高原駅へ、ここで2階建て車両の「とき」に乗り東京へ向かう。東京タワーを歩いて登るという計画は中止し、神田にオープンしたスーパー銭湯「RAKU SPA1010」へ直行。登山の疲れを癒したあと行きと同様に夜行バス「VIPライナー楽のびシート」に乗り三宮へ到着、解散しました。

リーダーの藤本さん、ありがとうございました。同行のみなさんお疲れさまでした。

いいで ■飯豊連峰縦走

- 日程：7月25日(木)～30日(火)
- 参加者：L上田 SL瀧原 大谷 田羅間 松下 村上
- 行動記録：

(26日)川入民宿村杉荘 5:10 発～林道登山口 5:25 発～小白布沢林道終点登山口 5:45
～横峰(8:10着)8:25 発～秀峰水(8:50)9:10 発～地藏山下9:20～剣ヶ峰(10:35
着)10:45 発～三国小屋(11:20着)11:45 発～切合小屋(14:25着・泊)

(27日)切合小屋 6:05 発～草履塚 7:00 発～本山小屋(8:40着)9:05 発～飯豊山(9:30
着)9:35 発～御西小屋(11:20着)13:30 発～文平の池(14:05着)14:10 発～御西
小屋(14:45着・泊)

(28日)御西小屋 8:00 発～天狗の庭 9:06～御手洗の池 10:14～烏帽子岳(11:52
着)12:10 発～梅花皮岳 12:31～梅花皮小屋(12:58着・泊)

(29日)梅花皮小屋 6:10 発～北股岳(6:45着)6:55 発～門内小屋(8:15着)8:35 発～扇
の地紙(9:00着)9:15 発～湯沢峰(13:40着)13:55 発～飯豊山荘(16:10着・泊)

◆川入から登り続けて切合小屋へ

大谷

【26日】飯豊山行に参加するにあたって、いろいろ思い悩み、行くか止めるかと毎日積んだり、崩したりしていたが、本を読んでいるとやはり行きたい思いが強くなり、行くことに決めた。梅雨の長雨の後、天気が不安定から、やっと好転の兆しになったので行く事ができた。

川入の民宿は2軒のみ、その1軒の村杉荘に宿泊。早朝5時に宿の車で小白布沢林道終点登山口まで送ってもらった。下南沢から横峰に出る作業道の登山口は、御沢小屋跡コースに比べて200m高いので、一気に高度を稼ぐことが出来る。その為、この作業林道は急坂、初日なので結構きつくこたえる。(あまりしんどいと、どうして来てしまったのだろうと思ってしまふ)しかし、ガマンをして歩いていると少しずつ体が慣れてきて歩ける。3時間程登った所に、峰秀水の水場に到着、少しホッとする。30分程歩いて地蔵山下に着いた。

稜線に出て少し行くと鎖場のある剣ヶ峰だ。剣の先の様な形の岩稜帯が思いのほか長く続いていた。12.3kgのザックを背負っているので、落ちないように慎重に通過すると、三国岳山頂にある三国岳避難小屋に着く。ここは、福島、新潟、山形の県境に建っているようだ。三国岳避難小屋で宿弁のおにぎりを食べる。

駒返しハシゴと鎖場を登って行き、2時間程で種蒔山を過ぎると切合小屋に着いた。この小屋は、東北の避難小屋では珍しく1泊2食付で泊る。お疲れ様のビールを皆で乾杯をして、記念にTシャツを買った。今日の行程は大変厳しいものでした。

◆切合小屋～飯豊本山小屋を経て花の稜線を飯豊山大日岳へ 村上

【27日】予報では今日は何とかいいお天気のはずだが、出発時間に霧雨が降っていたので雨具着用。草履塚に着く頃には風はあるものの青空も見え、雪渓が残る大きな山々の美しい姿につい見とれてしまった。



姥権現を過ぎ、鎖のある岩場を登り詰めると石垣に囲まれた本山小屋と飯豊山神社に到着した。小屋の近くでは飯豊連峰の特産種であるイイデリンドウの青紫の小さな可愛い花に出会った。

本山小屋から飯豊山を越え御西小屋への尾根道は2000メートル級の尾根の稜線で、青空の下、雪渓をバックにチングルマやニッコウキスゲ・コバイケイソウが咲き誇る様はただ見とれるばかりです。点在す

る池塘は山上の美しい庭園です。

御西小屋に着くと昼食用の水を汲みに雪渓の脇のゴロゴロの石ころ道を下りる。ラーメンの昼食を済ませ遅くなったが大日岳の途中、文平の池辺りまで行けたらと小屋を出発したがすぐに雪渓を渡る事に躊躇した3名は小屋に帰り、残った3名でとにかく文平の池を目指す。

池に着く頃、空は青空なのに遠くでゴロゴロと雷です。遠く近くゴロゴロ。雨も降り出し大急ぎで小屋に戻りました。

◆シニアあるぷ？*雪渓歩き*7月28日の奮闘記 松下

【28日】私達のあとを追うように発生した台風6号は、27日午前7時頃に三重に上陸後、岐阜付近で午後3時頃熱帯低気圧に変わった。その後ゆっくり北上し、なぜか！東南北部へ進んだため、夜なか中、この山域はその線状降水帯にはまっていたようで、ドカ雨に暴風だった。

朝方は少しおさまったが、まだ風雨も強くガスって10m先が分からない。それでも、リーダーから8時出発と告げられ、合羽を着て御西小屋をあとにした。

溝のような谷筋を下ってから天狗岳の稜線へ出ると、風も相当強かった。身体ごと飛ばされないように踏ん張って歩く。稜線歩きから下って赤岳沢側へ入ると、風は少し止んだが、ガスって視界の悪い中を2時間あまりずっと～雪溪のトラバースの連続だった。3本めの雪溪だったか、雪溪の先端から5mほどで谷側へストンと切れ落ちていた。滑ったらあつという間に谷底なのでぞっとする。ストックを持って来なかった私は、一步一步慎重に足を置いて通過するように心がけた。

時折り雪溪の切れた登山道わきで休んだが、シラネアオイ、ショウジョウバカマ、イワカガミなどに癒された。雪解けした辺りは、シーズン到来とばかり高山植物たちが芽吹き準備をしている。

御手洗の池からは尾根道を歩いた。相変わらずガスって眺望の無い中だったが、果てしない広大なお花畑に感動した。ニッコウキスゲ、オカトラノオ、マツムシソウ、コバイケイソウ、クルマユリ、ヨツバシオガマ、ハクサンフウロ、ハクサンシャジン、ミヤマセンキュウ、ヤマハハコ、ミヤマキンボウゲ、ゴゼンタチバナ、シャクナゲ、チングルマ、アカモノ、タカネナデシコ、チシマギキョウ、イイデリンドウ・・・本日の最高峰である烏帽子岳の登りも風に揺れる花々に癒された。梅花皮(カイラギ)岳を越えると梅花皮小屋に着いた。出発の御西小屋からほぼ5時間、風雨の強い中での行動でずぶ濡れだったのでホッとした。

◆苦闘10時間無事下山

田羅間

【29日】縦走4日目、疲れもピークに。明け方まで降っていた雨は霧雨になる。飯豊山荘まで下らねばならないのでストレッチをして出発。すぐに急登。ストックに頼りながら登る。北股岳に30分程で着く。続いて門内岳頂上。少し休憩して歩き始めるとすぐに門内小屋、ガスで見えなかったが頂上のすぐ下に小屋。

一休みして、出発。

梶川峰の少し前辺りから晴れ、石転び沢の雪溪を下る人の姿が見られた。すごい急傾斜。よくもまあ落ちないものだと感心した。しばらく行くと激しい雨に降られ、立ち往生。30分ほどしても止まず歩くことにする。キレ落ちた道やガレ場を越えて下る。五郎清水を過ぎて段差の大きい岩道が続く。湯沢峰へはキツイ登りその後はまた厳しい下り、転ばないように、沢に落ちない様に最大限の注意



をはらいつつ急な下り、ロープや梯子なども使いつつ下る。どこまで続くのかと不安になりながら、下って行く。山荘が見えてからも急な下りが続く。やっとのことで下山口に着いたのは午後4時。10時間歩いて無事に下山。山荘に到着。ドッと疲れが出た。温泉につかり、長い縦走の日々をふり返り、よくもまあ来たものだ。よく歩けたと我ながら感心する。皆さんお疲れ様でした。ありがとうございました。

■高御位山縦走

- 日 程：7月28日(日)
- 参加者：L森本 SL平井 天野 小田(敏) 小田(昌) 乙坂 黒本 須増 谷口 安田 矢根
- 行動記録：市ノ池みどりの相談所7:45 発～経政神社(8:20 着)8:25 発～長尾天満宮(8:45 着)
8:55 発～高御位山縦走路出会い(9:55 着)10:20 発～大鳥居(12:00 着)

◆平家ゆかりの^{つねまさ}経政神社～長尾天満宮～高御位山縦走

小田(敏)

梅雨が明けて毎日猛暑が続いており、今朝も25℃を超える暑さで、クマゼミがシャンシャン鳴いていました。曇り空でしたが、蒸し暑く熱中症に気を付けて、水分と塩分を補給しながら、暑さとの闘いの縦走でした。



高御位山の登山ルートは、20カ所以上あるようですが、私は、いつも成井から階段で登ることが多いので、違うルートも行ってみたいと参加しました。

市ノ池公園を出発して、いつもの清掃登山のコースを少し登って行くと、途中東に進む道があり、暫く行くと急な下り坂に差しかかりました。まだ、10分ほどしか登っていませんが、汗だくで水分補給の休憩。急坂は、滑るので注意しながら、前の人との距離を開けゆっくりと進みました。竹林を抜け長尾地区の住宅地まで下り、木立の中を進むと鬱蒼とした杉林に囲まれた小さい

平家ゆかりの「経政神社」に着きました。鳥居の奥の階段の先の社殿は、修復中でした。やぶ蚊が多くて、じっとしていると刺されるので、足踏みをしながらの休憩です。O型の血液型の方は、蚊に刺されやすいとか、... 本当だろうか？この近辺は「但馬守」と呼ばれ、平家伝説が残る地区だとは、知りませんでした。歴史勉強になりました。

長尾天満宮を過ぎると展望が開け、長尾登山口からの合流点の鉄塔に出ました。ここまで来ると歩いた事があるコースなので、距離感が分かるので安心しました。岩尾根は、少し風が吹くと気持ちが良かったが、下からの熱気で暑くて、堪らなかったが頑張るしかなかった。頂上へは、巻道ではなく、ロープのある大きな岩盤を登り、反射板のある高御位山縦走路に出るルートで登った。足元ばかり見ていたので、頭を上げた時に出張った岩に頭をぶつけてしまった。痛いと思ったら少しタンコブになっていました。

高御位山縦走路到着が、予定より30分以上遅れていたのので、下山は、百間岩経由を止めて、馬の背ルートから下山することになりました。首に巻いていたタオルは、絞れるぐらい汗でビショビショです。既に1リットルのお水がなくなっていました。

馬の背の手前まで尾根道のアップダウンを繰り返しながら、所々大きな木の下のおアシスで休憩を取って、ゆっくりと進みました。暑さのせいでしょうか口数も少なく、黙々と早く下山したい一心で冷たいかき氷を楽しみに歩きました。12時に鹿嶋神社大鳥居に下山し、ストレッチ

をしてから、皆で参道にあるかき氷屋さんに行きました。クーラーの効いていないお店で、蜜だけがかかった昔懐かしいかき氷を食べました。汗もスッと引いて心地よかったです。

今度は、気候の良い時期に縦走を挑戦したいと思います。

リーダーをはじめ、ご同行の皆様、大変お世話になりました。有難うございました。

■六甲・風吹岩から雨ヶ峠

- 日 程：7月28日(日)
- 参加者：L 砂川(延) SL 野村 土井 西川 福田(正)
- 行動記録：阪急芦屋川駅 9:00 発～高座の滝(9:28 着)9:35 発～風吹岩(10:40 着)11:00 発
～雨ヶ峠(11:55 着)12:30 発～住吉谷出合(13:15)13:20 発～互助堰堤(13:30 着)
～阪急御影駅(14:40 着)

◆涼風の高座谷から住吉谷へ山歩きの奥深さとトラウマとの闘い 福田

初めての山歩き教室で6月に行った阪急芦屋川～高座の滝～風吹岩～雨ヶ峠を通り、その後は下りで旧有馬街道、互助堰堤そして住吉道を通るコースでした。

薄曇りで直射日光もあたらなく、また大部分が木陰の中だったので、快適に歩けたコースでした。高座谷は一部道もはっきりしてなく、アプリでコース確認する場所もありました。谷筋を歩いた為、川からの涼しい風もあり、渡る川の水も冷たく、せせらぎの音など暑さを忘れさせてくれました。魚屋道、旧有馬街道のその歴史的な謂れなど拝聴しながらの山行となりました。6月に高御位山遊会に入会した私にとって、7月のこの山行は、二つ心に留めていたものがありました。一つは6月に山歩き教室でほぼ上りは同じコースを土砂降りの中登ったからでした。雨の中の登山は、今までソロで登ってましたので経験が無く、苦い経験となりました。雨ヶ峠までとても長い行程でした。雨ヶ峠で立って昼食を摂ったことはこれからも忘れられない思い出です。その行程を今度は気持ちよく登れたこと。山歩きの深さを感じました。二つ目は7月の終了山行で、脚が攣り、大きなトラウマとして残ってしまいました。色々対策をしてしまいました。多めの飲料水、お塩、湿布、行動食など。でもやはり、後半の下りできました。確か会長はそのまま、歩き続けるとなんとかなると、そうしました。いつしか脚の攣りも消えていました。私にとってとても有意義な山行となりました。有難うございました。



■木曾駒ヶ岳・^{うつぎ}空木岳

- 日 程：8月1日(木)～3日(土)
- 参加者：L 尾内 SL 待場 香川 田中(重) 野村 橋本(健)

●行動記録：

- (1日) 姫路駅 6:20 発(新幹線)一名古屋駅 8:30 発(バス)一駒ヶ根 IC11:37 発(バス)一しらび平 12:15 着 12:30 発(ロープウェイ)一千畳敷(12:37 着)13:00 発～宝剣山荘(14:00 着)15:15 発～木曾駒ヶ岳(16:05 着)16:15 発～宝剣山荘(16:55 着・泊)
- (2日) 宝剣山荘 4:35 発～千畳敷駅(5:30 着)5:35 発～極楽平(6:30 着)6:50 発～檜尾岳(10:30 着)10:50 発～熊沢岳(13:20 着)13:35 発～木曾殿山荘(16:10 着・泊)
- (3日) 木曾殿山荘 5:30 発～空木岳(7:30 着)7:45 発～駒峰ヒュッテ (7:50 着) 8:00 発～分岐(9:00 着)9:10 発～池上小屋(12:20 着)12:30 発～林道終点(13:30 着)13:35 発(タクシー)一こまくさの湯(14:00 着)15:50 発(バス)一駒ヶ根 IC(16:00 着)16:32 発(バス)一名古屋駅(20:20 着)20:48 発(新幹線)一姫路駅(22:07 着)



◆遠くて近かった木曾駒ヶ岳

尾内

前日、長年勤務した職場を離れ、感傷的になる間もなく初めての山歩き教室の反省会に向かう。21時無事終了して、明日からの留守の買い物を済ませ帰宅、中途半端な準備のままだったザックの整理に持ち物の点検をして就寝。起床時刻と天気、バスの乗換等が気になって寝付けない。朝6時姫路駅新幹線ホーム、たまたま同じ新幹線で行くことになった磐梯山山行パーティと出会って気分が高揚する。名古屋駅で高速バスに乗り換え、駒ヶ根インターへ。さらにバスでしらび平まで行き、そこからロープウェイで一気に雲上の別世界へ。目の前に圧巻の絶景が広がる。千畳敷の中の高山植物をゆっくり楽しみながら歩く。傾斜がきつくなり急登をあえぎながら進み極楽浄土へ。手が届きそうな宝剣岳にうっとりする。

ザックを小屋に預けて、いよいよ木曾駒ヶ岳をめざして登ろうと意気込んだものの雨がぽつりぽつり、雨具の上衣だけを着けて小屋を出る。しかし、小屋を出たとたん到大粒の雨が。下衣も着ようと小屋に戻る。え～雷雨、これでは登ることができない。登頂をあきらめる。悔しい。ここまで来て木曾駒ヶ岳に登れないのはとても残念である。途中で大雨に合うことを思うとまだいいかと自分を慰める。ザックを部屋に運んで、コーヒーをいただいくつろぐがやっぱり外が気になる。願いが通じたのか雨が上がったので、外に出る。散策のつもりだったが、50

分程で木曾駒ヶ岳の頂上まで辿り着くことができた。頂上には2つの神社があり、それぞれに感謝と行く手の無事を祈願。人も少なく十分楽しんで下山。夕食時刻5分前に小屋に着くことができた。6人で幸運を喜び合い乾杯。無事に1日目の日程を終えることができた。明日の天気と木曾殿山荘までの長時間歩行の無事を祈って就寝。

◆宝剣山荘～空木岳手前の木曾殿山荘へ

香川

昨夜は予想に反して満天の星空だったとHさんから聞き見に行かなかった事を少し残念に思いました。

朝4時前に起床、朝食をお弁当にしてもらい出発です。今日は宝剣岳を背にして尾根道を南下するコースです。切り立った岩稜でピラミッド形の宝剣岳、時間に余裕があれば登ってみたい気がしました。昨日千畳敷駅から登ってきた道を下る。もう一度爽やかな空気を吸いながらお花畑の中を歩ける事が嬉しい。途中で東の空が赤くなってきました。

6時半に50メートルほど登った極楽平で朝もらったお弁当タイムです。多めのご飯の上にサバの味噌煮が大胆に置いてあり、体力がつきそうです。前後左右の展望を楽しみながら稜線を快適に進む。所々にハイマツに赤い花が咲いていて実にかわいい。しかし登り下りを繰り返していくうち岩場が多くなり鎖と鉄杭が現れる。リーダーがNさんに「先に登って、引き揚げてくれる？」と。ストックを先にあげ、手を引っ張ってもらって登る事ができた。反対



側から登ってきたベテランらしい女性が「このコースは侮れないよ！」と言われた言葉が身に染みた。途中、宝剣山荘で同泊だった30人ほどの韓国人グループの若者に先を譲る「アンニョンハセヨ」「こんにちは」とあいさつ。昨今の日韓関係はなんのそのだ。たっぷり時間をかけ、檜尾岳～巨岩立ち並ぶ熊沢岳をクリア。予定より一時間ほど遅れて木曾駒山荘に到着しました。出発から11時間半、皆で協力し合い歩き通す事ができました。

◆木曾駒ヶ岳・空木岳3日目

野村

4時55分に木曾殿山荘からのご来光、遠くに北アルプス、南アルプス、乗鞍岳、御岳山が薄っすらと見ることができた。

5時30分、昨日の木曾駒ヶ岳からの縦走路を眺めながら、空木岳山頂を目指し2時間の急斜面を登る。予定通り7時30分に空木岳山頂に到着した。頂上では、南北アルプス、中部地方のほとんどの山を一望できる大パノラマを楽しみにしていたが少しガスが出て残念！頂上から少し下りた駒峰ヒュッテで休憩後から青空も見えてきて、空木岳のハイマツの緑と花崗岩の白のコントラストが美しく、その縞模様が印象的でした。今日のコースは、この空木平を下山する。ハイ松、お花畑の稜線の縦走、白色の石楠花がハイ松の間に咲く大庭園が広がる。途中で駒石と呼ばれる巨岩がありその大きさに圧倒される。空木平の分岐点を過ぎ下り坂と油断していると今度は大地獄、小地獄と呼ばれる「痩せ尾根」かつ「急な鎖場」が現れる。小地獄、

大地獄の痩せ尾根に注意して下るが最後まで気を緩めない。慎重に下山したので60分程予定時間をオーバーしてしまった。池山小屋横に水場がありここで最後の水分を補給して林道からリーダーが電話で到着時間をタクシー会社に連絡、林道終点手前13時30分に到着、同時にタクシーが駐車場に入ってきた。最後の目的地「こまくさの湯」予定時間の14時に到着。

※この下山コースは林道終点から登山口まで徒歩1時間強のコース。バスも走っていない。今回はリーダーの計らいで助かった。タクシーを手配していただいて大助かりでした。尾内リーダーに感謝です。

やはり3,000m近い山。安易に考えないで注意したいコースと実感しました。夕立の多い時期ですので雷雨の悪天候だったら予定通りの行動が出来たか不安を感じました。木曾駒ヶ岳はロープウェイで登り、距離は長いが縦走路、木曾殿山荘経由で空木岳からの下り山行で体力的には問題ないと思っていましたが、感想：なかなか想像以上に厳しい山でした。

■磐梯山(1816m)福島県

<ゆっくりズム山行>

●日程：8月1日(木)～3日(土)

●参加者：L藤原(千) SL渡邊 SL澤田(律) 澤田(卓) 切貫 橋本(万) 平石 廣岡

●行動記録：

(1日)姫路駅 6:20 発のぞみ 104 号—東京(9:23 着)10:00 発やまびこ 133 号—郡山駅(11:19 着)11:39 発—猪苗代駅(12:25 着)バス五色沼入り口 13:06～裏磐梯ビジターセンター(13:20 着)14:10 発～毘沙門沼(14:20 着)14:25 発～赤沼(15:00 着)15:05 発～探勝路出口(16:10 着)16:40 発バス国民宿舎裏磐梯(17:00 着・泊)

(2日)国民宿舎裏磐梯 8:00 発—八方台登山口(8:20 着)8:30 発～中ノ湯跡(9:10 着)～裏磐梯スキー場分岐(9:15 着)9:20 発～弘法清水(11:14 着)11:25 発～頂上(12:05 着)12:40 発～弘法清水(13:30 着)13:35 発～中ノ湯跡(15:18 着)～八方台登山口(15:50 着)—休暇村裏磐梯(16:30 着・泊)

(3日)休暇村裏磐梯 9:30 発バス—長峯舟付(9:35 着)9:50 発～吊り橋(10:30 着)10:35 発～レイクランドヒバラ(11:05 着)11:12 発～休暇村裏磐梯(11:45 着)昼食バス 13:50 発—猪苗代駅(14:20 着)14:42 発—郡山駅(15:19 着)15:30 発やまびこ 144 号—東京駅(16:48 着)17:03 発ひかり 481 号—西明石駅(20:31 着)—姫路駅(20:42 着)

◆磐梯山山行に参加して(ゆっくりズム)

渡邊

磐梯山は登ってみたい山のひとつでした。この度、山行計画に上がったものの、自分の体力と体調を考えると無理があると思いながら、リーダーのFさんに相談したところ、観光コースの選択も可能との回答を頂き、参加を決心しました。一方、出来る事なら磐梯山に登りたい気持ちも有り、2ヶ月前からトレーニングを開始。この2年間例会山行に参加してないだけに、泥縄式のトレーニングでは無理との思いもありましたが、近くの坂道(斜度6度)を利用して毎日標高差1000m程度の登りを練習しました。又、事前の高御位山合同トレで現在の体力を確認し、途中の小屋までなら何とか歩けるかなとの思いで最終的に参加を決めました。

1日目：五色沼探勝路散策

目的の五色沼バス停に13:06到着後、宿泊先の国民宿舎に荷物を預け、身軽になった上で、五色沼探勝路散策に出掛けました。最初に裏磐梯ビジターセンターを訪問、裏磐梯の概要

についてビデオの映像を見せて頂いた。裏磐梯周辺には大小様々な湖沼が300以上有ります。これらの湖沼群は1888年7月の磐梯山噴火により山体が崩壊、岩屑なだれが谷や川を埋め、沢山の湖沼群が生まれたそうです。今回はこれらの湖沼群の中で代表的な、五色沼と3日目の桧原湖探勝路散策が予定されていました。

五色沼とは毘沙門沼、赤沼、みどろ沼、竜沼、弁天沼、るり沼、青沼、柳沼などの湖沼の総称だそうです。探勝路はこれらの湖沼に沿って道があり、いろんな角度から湖沼の景色を楽しめるように工夫されていて、様々な色彩を見られることから、五色沼という名前がついたそう



木の葉が湖面に触れて
白く変色しています

です。沼によってエメラルドグリーン、コバルトブルー、ターコイズブルー、エメラルドブルー、パステルブルーと色が違う不思議な場所で「神秘の沼」と言われるそうです。中でも青沼は自然が作り出した物とはおもえない綺麗な色のようなのです。この青沼は強酸性で魚はすすめない。他にもケイ素、アルミニウムの成分をふくんでお

り、風で木の葉が水に濡れると脱色され白くなるそうです。湖畔から見てもはっきりと白い葉を見る事が出来ました。探勝路には種類は少ないが花を見かけることが出来ました。探勝路は3.6km/1:30分程度のコースでした。最後に裏磐梯物産館に立ち寄り、喉を潤した後、宿に向かいました。

2日目：磐梯山（標高1816m）登山

今回一番の目的である磐梯山登山は快晴の下での山歩きが出来ると全員が機嫌よく、タクシーと宿の送迎車に分乗し、登山口へ向かった。ストレッチの後、8:30登山開始。

磐梯山の登山道は6つある。今回は一番楽な八方台登山口コースを歩くが、それでも累積標高差は624mある。今の私にとってはアルプス登山の心境でした。今回は無理しないを念頭において、弘法清水小屋（標高1625m地点）までを目標にしたい旨リーダーに申し出していました。

出発して中ノ湯地点まではなだらかな登りで、何とか皆さんについて行けたが、その先は傾斜度19度の登りが600m続く。心拍数もかなり高くなり、歩くスピードも遅くなる。ほぼ中間点を過ぎた地点で、リーダーが2班に分けて歩くことを決定。私は後続組として歩かせて頂く事になりました。リーダーの配慮でサポートを2名付けて頂き、心苦しかったのですが、指示に従って、目標の弘法清水小屋を目指しました。弘法清水小屋には先行組から40分遅れで到着し、私は此处で待機させて頂くことにして、サポートのお二人は頂上を目指して出発しました。傾斜がきつただけに休憩の頻度も増え、サポートのSさん、Hさんにはご心配をかけました事、申し訳なく思っています。サポート頂いたお陰で目標の弘法清水小屋に到達出来ましたこと感謝しています。その後、山頂からの下山組と一緒に下山し、タクシーで国民宿舎に預けていた荷物を引き取った後、宿の休暇村に向かった。休暇村では宿泊者にPM8時から天体観測のサービスを行っており、希望者のみ参加して天体観測の仕方についての説明と、天体望遠鏡で木星観測をさせてくれました。希望者が多かったため、一人数十秒の時間でしたが、木星の綺麗な横縞模様を観ることが出来ました。

3日目：桧原湖探勝路散策

1日目に続き、3日目は南北に細長い桧原湖畔散策でした。桧原湖は日本で最も大きい火山性の堰止湖でもある。我々は桧原湖沿いに探勝路を北に向かって歩き、桧原湖の景観の変化や、その向こうに見える磐梯山系の山々を眺めながら景観の変化を楽しみました。行程の中程には裏磐梯唯一の吊り橋（冬季はこの橋ははずされるそうです）が有り、ここからの眺めも素晴らしかった。巨大な湖沼だけに湖畔沿い探勝路はアップダウンが大きく、その数も多くて、歩くこと自体、私にとっては厳しく感じました。また、道路沿いにはオオウバユリやヤマユリが沢山咲いていて楽しませてくれた。ただ花の種類は多くはないと思いました。この探勝路は4.7 km / 2H程度の行程であったが長く感じました。

今回の山行は3日間快晴に恵まれ、リーダーの綿密な計画に沿って日程を消化出来、参加者全員で山行を存分に楽しめたと思います。山行リーダーをはじめ参加者の皆さんには大変お世話になり、ありがとうございました。

◆磐梯山バンザイ！！

平石

8月2日、訪れたのは福島の中央に聳える会津磐梯山。火山が造った、たぐい稀な自然に触れながら頂を目指します。8時30分八方台登山口をスタートし、ブナ林の中を歩きました。空は青く晴れ渡り、風は冷たく清々しい！！

30分強歩いた所が中の湯、地面からブクブクと気泡が出ていました。冷泉です。ここから次の目的地、弘法清水まで1.6 kmを歩きます。歩き始めて1時間程の所で、昨日歩いた五色沼を眼下に見ることができました。



この辺りからリーダーは1名の体調を案じ、8名のパーティを2班に分け1班はリーダー他5名、2班はサブリーダーとサポート1名をつけ3名にして、1班は先に弘法清水を目指して進む、2班は後から

ゆっくり歩くことを指示しました。弘法清水までは1本道で交わすことが無理なところがたくさんあり、石がごつごつと岩だらけの道でした。ちなみに磐梯山は「磐が梯子のように天へ連なった山」からきているらしいです。所々で見られる花を楽しみながら歩きました。私は、磐梯山固有種のバンダイクワガタの花が見たかったのですが、夏の初めの花のようで、もうすでに咲き終わっていました。残念！！

スタートしてから3時間弱、弘法清水に着きました。乾いた喉を山からの冷たい水で潤し、ちょっとひと休み。その間、岩だらけの荒涼とした火口壁をカメラに収め、再び登って行きました。

ここも石がごろごろしています。急な登りですが、木漏れ日がとても気持ちいい。中学生や高校生が大勢合宿でトレーニングをしていました。大きな鍋や器を担いで登っていました。

頂上でトン汁を作るとのことでした。ここからは彼らのパワーを貰って、これが最後の登りと言いつつ頑張りました。

弘法清水から40分程で頂上に着きました。360度のパノラマです。眼下には猪苗代湖、東に目を向けると安達太良連峰、北東には吾妻連峰が見える。頂上にはたくさんのトンボがす

いすい飛んでいて指に留まってきました。ここでおにぎりを食べていると。電話があり「自分は山小屋で待っていて後の2人はみんなを追っかけて行ったからもうすぐ頂上に着くと思うよ」と。すると間もなく、2人の顔が見え、「早かったねえ」と笑顔で迎え、磐梯山の頂上でバンザイをして記念写真を撮りました。

1班はそれからすぐに準備をして下山開始、山小屋で待っている人と合流しました。その間、体調不良を訴える人や、足の不調を訴える人などありましたが、リーダーはその都度メンバーを動員し適切な判断で指示されました。綿密な計画を立て、それに従って私たちを連れて行っていただいたお陰で予定通りに下山口に到着することができました。予約してあったタクシーにも間に合い、2台の内の1台に早く着いた班が乗り、宿舎の荷物を取りに行き、後の班は次の宿舎へ直行するようにとのこと。これもスムーズに進み良かったと思いました。

新幹線を乗り継ぎ、また乗り継ぎで時間、乗降場所、宿舎、タクシーなどの予約等大変だったと思います。お疲れさまでした。楽しませていただきました。本当に感謝、感謝です。一緒にいただきました皆様お世話になりました。

磐梯山は、優しい山容と荒々しさの両方を楽しめたのが魅力でした。宝の山とも称される会津磐梯山。噴火から復活した森を歩き花々と大展望を満喫した山旅でした。ありがとうございました。

■初めての山歩き教室・終了山行(三ノ峰)

● 日程：7月20日(土)～22日(月)

● 参加者：サポートL砂川(延) SL尾内 中村 藤原(千) 安田 教室生9名

● 行動記録：

(20日)高砂駅8:15発—宝殿駅(8:23着)8:28発—加古川駅(8:40着)8:45発—播磨中央公園東(9:33着)—日本海さかな街(12:06着)12:57発—ショッピングセンター(14:10着)14:44発—キャンプ場(15:47着)

(21日)キャンプ場6:10発～登山口(6:35着)6:40発～山越邸跡(7:00着)7:10発～六本桧(8:15着)8:25発～剣が岩(9:27着)9:35発～三ノ峰避難小屋(11:20着)11:50発～三ノ峰山頂(12:00着)12:10発～三ノ峰避難小屋(12:25着)12:30発～六本桧(14:36着)14:50発～山越邸跡(15:56着)～登山口(16:10着)～キャンプ場(16:20～17:00着)17:15発～ホテルフレアール和泉(18:10着)

(22日)ホテルフレアール和泉9:40発—タケフナイフビレッジ(10:30着)11:10発—日本海さかな街(12:00着)12:30発—源与門(12:50着)14:00発—加古川駅(18:50着)—宝殿駅(19:10着)

◆お花いっぱい秘境

藤原(千)

土砂崩れがあり三ノ峰登山が案じられましたが、小規模なものでラッキーでした。当日は曇りがちで気温もさほど上がらず絶好の登山日和。

登山口からはいきなりの急坂で驚きましたが、リーダーの程よいペースに導かれ六本桧に着。皆さん笑みがこぼれています。標高1420m、視界が開けばしばらく休憩。これからは稜線歩きだから楽かと思いきや、なかなかの急坂が続きます。しかし、谷から吹き上げる涼風が火照った身体に心地よく、またササユリ、ニッコウキスゲ、ウスユキソウ、タテヤマ

ウツボグサなどの群生が次々現れ、鮮やかで大変美しく、目を楽しませてくれました。出会う人は少なく静かで、登山道は貸し切り状態でした。リーダーが「山頂へは全員で行きたいな」と優しい心遣い。避難小屋で食事をしながら揃うのを待ちました。体調不良で1人は山頂を踏めず残念でしたが、全員無事に下山出来たことは何より大きな喜びでした。4月から山歩き教室にかかわらせていただき、教室の皆さんと共に自分も学びかつ楽しみ、充実した貴重な4カ月間が過ごせました。ありがとうございました。山仲間が増え、これからの山行がますます活気づくことを期待しています。



◆終了山行に参加して“感動の三ノ峰登山”

天野

7月21日(日)自身初となる2千メートル級の三ノ峰に登ることができ教室の関係者、終了山行にスタッフとしてお世話いただいた方々に感謝！ありがとうございました。

初日の20日(土)山行に持っていく荷物が多すぎて集合場所の JR 宝殿駅まで歩いていけそうでない。荷物の多さにびっくりした家内が車で送ってくれました。感謝！

初めての泊りがけ山行が、テント泊だったので個人装備リストに載っている品物をできるだけ用意したのですが、これが失敗のもと。2泊3日の山行なのに旅行気分で服装は2日分の着替え、キャンプ場での作業し易い服・靴(結局使わなかった)とか必要の無い物が多数ありました。良い経験ができました。(山小屋泊の山行に活かしたい)

会長運転のマイクロバスの乗り心地も最高に良く、不安だった車酔いも無く道中を楽しく過ごせたことに感謝！会長お疲れ様でした。

2日目、21日(日)朝4時過ぎに起床、雨は降っていない。

女性陣は朝食の準備で忙しそう。自分は何をしてたかを忘れるくらい何もしてなかった。

朝食をしっかり食べることができ体調も良好。女性陣に感謝！(昨夜のカレーも美味しかったです)ストレッチをして登山開始！と思いきや30分近く歩いてやっと三ノ峰登山口に到着。

待っていたのは階段での登り、高御位成井登山口コースでの負荷トレの甲斐あって快調に登り出すことができました。段差のある所は流石に“きつかった”ですが、疲れてしまう前に休憩を取ってくれるリーダーに感謝！1時間半程かけて景観の良くなる六本松の尾根筋に到着。

三ノ峰避難小屋までは、あと3時間以上掛かる予定。体力が持つか心配しましたが途中のニコウキスゲのお花畑を見て元気を取り戻し、写真を撮る余裕も出てきました。

(自撮り棒を持っていったが使う余裕まではなかった)

予定ではあと1時間30分程で避難小屋、でも三ノ峰の頂は見えてこない。

近場の山しか登った経験がないので目標の山頂が見えないのは精神的にもしんどかったです。

予想時間を予め聞いていたので何とか皆について登ることができたのかなと思います。

スタッフからの登りはここまで！避難小屋まではほぼ平坦！もう少しガンバレの声を聞きや
っと登り着けたと心の中でまず感動。その平坦な山道の途中には遭難された方の慰霊碑があり、
山の怖さを知りました。(突然の雪で視界が無くなり100mもない先の避難小屋に辿り着けな
かったそうです)

11時30分三ノ峰避難小屋にやっと到着！30分休憩しザックを持たずにガスでかすむ山
頂に向かい10分足らずで登頂できたが、感動が湧いてこないのはガスで景色が見えないから
なのか。(また登って来なさいとっている様)

12時30分下山開始、登って来たコースを下り16時10分登山口に無事下山でき感動！
不安のあった膝痛もなく2千メートル級の初登山を無事終えることができたのは高御位山での
負荷トレを見守り暖かい言葉を掛けてくれた山友の方々、そして山登りの楽しさを実感させて
いただいたスタッフ皆さまのおかげであり感謝の気持ちでいっぱいです。

数年先に終了山行のスタッフとして参加できるように頑張りたいです。

■2019国民平和大行進

● 日 程：7月12日(金)～16日(火)

● コース：東京→広島コース・兵庫/山電東二見～JR寒河駅

【高御位山遊会・参加者】

| 日程 | 行進区間 | 参加者 |
|-------|---------------|---------------------------------------|
| 12(金) | 山電東二見～高砂中央公民館 | 砂川(延) 須増 徳本 |
| 13(土) | 高砂中央公民館～大手前公園 | 阿部 泉 澤田(律) 砂川(美) 須増 竹内 松下 三木(悦) 村上 |
| 14(日) | 山電飾磨駅北～たつの市役所 | 上田 大谷 砂川(延) 高島 平井 森本 和田 |
| 15(月) | JR本竜野駅～赤穂市役所 | 砂川(延) 須増 松下 三木(悦) |
| 16(火) | 赤穂市役所～JR寒河駅 | 小田(昌) 砂川(延) 須増 森本 |

◆平和行進に参加して

泉

昨年の9月に高御位山遊会に入会して、初めての平和行進に参加しました。と言っても、
7月13日の午後からの参加で12時に大塩駅前を出発して姫路市役所までの3時間半ほど
の行進です。雨がぱらぱらと少し降ったりやんだりの曇り空でした。暑さも霧雨のお陰で和
らいでいましたが、それでも汗がじわじわと出てきました。平和と登山の旗の後に付いて休
憩しながら歩きました、姫路市役所に着く頃に雨が激しく降ってきました。5月6日に東京
を出発して8月4日に広島到着まで厳しい日照りの日も雨の日も歩き続けるなんて、凄いな
と思いました。平和行進はどんな感じなのかな？とトレーニングを兼ねて半日なら参加して
みよう、軽い気持ちで参加したけどチョット申し訳ない気持ちがしました。皆さんの真剣
な思いに触れ目的地まで無事行進されるのを祈り帰路につきました。



12日(金)東二見～高砂中央公民館コース高砂支所前で労山の参加者と通し行進者で

- 写真左から・高御位山遊会 砂川(延) 須増 徳本 ・全国通し行進者 山口逸郎さん
 ・須磨労山 吉谷さん ・国際青年リレー行進者 ペドロ. フェニス. ジョングさん
 ・甲山労山 本多さん ・垂水ハイキングクラブ/県内通し行進者 釣さん
 ・兵庫労山理事長 吉谷さん

◆国民平和行進について

森本

今年も広島・長崎の原水爆禁止世界大会に向けて、北海道から沖縄の全国の幹線11コースで行進が行われている。我々が参加する〔東京→広島コース〕は、5月6日に東京都江東区の夢の島公園を出発し8月4日に平和公園に到着する。

兵庫県には7月7日に大阪から入り16日に岡山県に引き継いだ。本コースの広島までの通し行進者は山口逸郎さんで87歳、全国の各コースを通し行進しており、本コースは3回目との事で健脚振りに圧倒される。また毎年海外から国際青年リレー行進者が先頭を歩いており、フィリピンの青年が多い様だ。県内の通し行進者10名の内、兵庫労山からはいつも愛犬ポインタ同伴の釣順信さんが参加されているが、今年は愛犬がいなかった。

高御位山遊会が参加する区間は、①山電東二見～高砂中央公民館、②高砂中央公民館～大手前公園、③山電飾磨駅北～たつの市役所、④JR本竜野駅～赤穂市役所、⑤赤穂市役所～JR寒河駅である。

今年は③と⑤の区間に参加した。③区間ではいつも太子町役場で完熟とまのおもてなしを受け、ゴールの赤穂市役所では糖度満点の西瓜で疲れを吹き飛ばしている。午後からの本降り雨で靴の中は水溜まりであった。⑤区間は初めての参加だった。これで分割ではあるが全区間をやっと走破した。赤穂市役所スタート後の市街地では昔の城下町の風情を味わいながらの行進であった。ゴールのJR寒河駅での引継ぎ式は、両県の関係者が集まり盛大なセレモニーだった。我が兵庫労山の参加者から高御位山遊会の小田昌代さんがただ一人、岡山県の行進団に交じって備前市役所に向かった。来年は、県内最長の④区間に再挑戦してみよう。

それにしても人類は、原水爆という愚かなものを創り出したものだ。

■第4回「山の日」を祝う 山頂で登山者に冷たい飲物を提供

- 日 程：8月11日(日・祝)
- 場 所：高御位山山頂
- スタッフ：阿久津 天野 上田 尾内 大谷 小田(敏) 門野(好) 門野(由) 黒本 澤田(律)
須増 砂川(延) 竹内 徳本 野村 平井 福田(あ) 福原 藤原(千) 松下
- 協 力：高御位神社・氏子 長谷川氏

◆報告

上田

8月11日、第4回「山の日」を迎え、高御位山遊会では毎年行ってきた「共に喜びあう山の日」の行事として高御位山山頂で猛暑の中登ってきた登山者に冷たい飲み物を提供しました。6時頃から集まったスタッフ20人がカルピスやお茶など約55kgを順次山頂に運び上げ7時頃から登山者に提供しました。早朝から30度を超える猛暑で、登山者はみんな汗だく、冷たい飲み物と、会員手作りのミニトマトを口に入れて、しばし疲れを忘れました。

高御位神社のお世話をされている方の協力もいただき、会話もはずむ山の日となりました。

